

京都国立博物館 見学感想

世界各地で記録的な猛暑、地球沸騰の時代と云われるこの頃です。

京都国立博物館へ行つた当日の京都方面の外気温は、体温より高い38℃で外出するのは、体調も思わしくない事もあり、気弱になり、欠席の連絡をすべきかどうか迷いました。でも振り返って見た参加させて頂き良かったの一言につきます。



京博のシンボル
煉瓦造りの明治古都館

明治時代の洋風建築物の風格とその庭園の素晴らしさ等、今迄何度か来館しているのにこんな美しく立派な館物をじっくりと眺めた事は無かった。ひんやりと静かな平成知新館内の展示物は大きくて威圧される様な仏像を始め、風格の有る茶の

湯の道具類がずらりとガラスケースの中に並んでいる。

不可能で畏れ多い事ながら両手の平に器をのせて、肌ざわりを感じたり、じっくり拝見したいなあ、そしてお抹茶を点てて見たい。

黒っぽい天目茶碗に細かく泡立った緑の抹茶の色がどんなに美しく映えるだろうと想像しながら眺めていました。その他に織物、能衣装、源氏物語が画かれた屏風と趣味をそえられる宝物が次々と展示されている。

しかし残念ながら身体の方が音をあげるのので、時々廊下のベンチで休みながら心地良い館内でのお宝拝見は心満され充実したひとときでした。

記：田中容子



8月3日、真夏日の快晴ですすがに、京都の猛暑を肌で感じました。

正門を入ると広々と緑多く、博物館らしい雰囲気を感じました。

中庭は展示物と共に四季を通して、美しいだろうなあ。と思いました。

「特別展」の茶道の茶碗では色々展示されていて、目の保養になりました。

私は織部焼の茶碗が、気に入りました。渋くて、深い緑色の絵付けが好きです。最初に見た四天王に頭を踏んづけられて、苦しんで「邪鬼」が気になりました。「足の指2本、手指4本なのはどうして?」

学芸員さんへ聞いたところ、「邪鬼は人間に成りきれないから」と説明がありました。哀しさを感じました。他に、見惚れてしまったのが、縄文時代の花瓶らしい作品でした。



縄目模様を付ける
縄文時代の女性

縄目模様が見事に繊細で、美しいデザインでした。

入場の時見た、ロダンの「考える人」の像を帰りの際再び見ると、會長様からの問いで、「何でこの像は西を向いているのですか?」がありました。

私の思いつきは、「極楽浄土への憧れ」からではと思いました。

他にも、いろいろと見れて充実した見学が出来ました。有難うございました。

記：榎並多津子

会員だより

この夏の猛暑への警告

私の小学生の頃は、熱中症や脱水症や地球温暖化という言葉は知りませんでした。

毎年夏場、京都嵯峨にある愛宕山に登ったり、大堰川へ近所の遊び友達をさそいあつて行きました。そこで泳ぎを覚えました。水の匂い、流れの緩急、上流に雨が降って川底が変わったりすることも、水の涼しさ・楽しさ・時によつては水の恐ろしさを体で覚えました。



友達と一緒に
楽しんだ川遊び

このように友達と一緒に泳いだことも懐かしい思い出です。

親からは、夏に外へ出る時は「日射病」になるから帽子をかぶりなさいとよく言われました。

この歳まで生きて現在があることに感謝しています。

でも令和になってからの夏の暑さは、殺人的で、特に高齢者には過酷で「熱射病」で倒れる人も

いるのです。夏はあつい!! 当たり前のことですが、35℃以上にもなると猛暑です。最近では、38℃を超える事も、39℃を超える事も、マスコミでは、「酷暑日」と言っているようです。

歩いていても、自転車に乗っていても、すぐに喉が渴きます。早く日陰や冷房のある建物へ入りたくくなります。



外出時は
気合だけではだめね

また、外を歩くと「行くぞ」と気合を入れて暑さ対策をします。

夏は、気温とともに体温も上昇するので、体は発汗によつて体温を下げようとします。その汗には、水分だけでなく塩分

も含まれており、この両方が失われることで脱水症に。脱水症を放っておくと、熱中症、熱射病へと症状が移行していきま

す。それは、高齢者だけではなく健康な子供も大人健康な成人は毎日、体重1kgにつき約35mlの水が必要との事です。このことから、1日に水を2.5L飲まなければならぬ。寝る前に枕元にも水が必要と言われています。



特に外出の際は、
涼しい服装、
日除け・水筒を!

のどが渴いたと感じる前に水分補給、室温28度を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましよう!!

外出の際は「涼しい服装」で、「日よけ対策も!」し、無理をせず、「適度に休憩を!」、日頃から「栄養バランスの良い食事」と「体力づくりを!」し、この暑い夏を乗り切りましょう!!

記：宝角弘枝